

教育相談だより

県立泡瀬特別支援学校
教育相談係 第4号

朝夕、まだ残暑厳しい時期ですが、学校のリズムは戻ってきていますか？
2学期は、就業体験、運動会、修学旅行など、行事で忙しい学期です。体調管理をしっかりとし、楽しく充実した学校生活を送りたいですね。さて、第4号の今回は、夏休みに行われた活動の報告をしたいと思います。

<公開講座>



夏休みの7月28日（月）、午前・午後の2回公開講座がありました。28日の午前中の講座では「発達障害の生徒への支援を考える」という内容で沖縄高等特別支援学校南風原分教室の比嘉展寿先生にご講話をいただきました。地域の幼・小・中・高校の先生方「60」名及び本校職員が参加しました。講座では、生徒支援に必要なこと、障害者権利条約に関すること、小学校の実践事例や疑似体験等、わかりやすく丁寧に話していただき、参加者は時間がたつのも忘れる程引きつけられていました。今回は、その一部を紹介したいと思います。



感想より

- ・比嘉先生の話はとても聞きやすかったです。疑似体験もあり、あっという間の2時間でした。支援の必要な子の、プラス面をもっと伸ばしていけるような関わり方や支援方法をもう一度じっくり考え、良い体制で2学期を迎えられるようにしたい。
- ・とても分かりやすい内容で、体験等もあり、比嘉先生の世界に引き込まれていくような感覚になりました。今日の講話の内容を他の職員にも伝えたいと思います。
- ・特別支援教育の奥の深さを感じました。「目からウロコ」の知識を知ることができました。
- ・小学校教員です。「発達障害の子供のために～」と思って参加しましたが、どの子も支援できる方法や、学級づくりのヒントにもなり、とても勉強になりました。反省点もあり、またやってみたいという意欲もできました。
- ・幼稚園教諭として、幼稚園の幼児の理解に繋がる話の内容も多くとても勉強になりました。
- ・私たち教師が大事な事は、子供を理解し、子供から学んだことを職員全員で協力し指導していく基本に戻った感じがします。

午後の講座では、本校教諭・儀間正直先生による「特別支援教育におけるICT活用について」と、那覇特別支援学校教諭赤嶺太亮先生による「離れていても・・・iPadでつながる想い、つながる笑顔!」、鏡が丘特別支援学校教諭澤岷圭祐先生による「学び方に困難がある生徒の未来への支援」の講話でした。

儀間正直先生の特別支援学校における「障害者への合理的配慮を深め、障害者向けの教育教材等について」、赤嶺太亮先生の「対象児生徒に対してiPadを通しての情報交換事例」澤岷圭祐先生の「肢体不自由生徒へのiPadを活用した事例」等、実践紹介やアプリの紹介など、今後の障害児に対する授業実践についてなど、講話内容を含め有意義な講義になりました。講義終了後も多くの先生方からの質問に対して丁寧に対応して頂き、大好評の講座でした。

赤嶺先生

儀間先生

澤岷先生



感想より

- ・実践報告の中で、児童生徒一人一人の変容がわかり、合理的配慮の大切さを知りました。教員一人一人が意識を高めていかないといけないと思いました。
- ・赤嶺先生から紹介を頂いたアプリは、小学校現場において、特別支援学級に限らず、通常学級の登校しぶりや不登校児への支援に繋がりそうで参考になりました。
- ・対象児Aさんの実践事例があってわかりやすかったです。
- ・ICTが学校の子どもの学習や生活向上もつながるものだと実感しました。
- ・非常に参考になりました。障害児教育への取り組みや生徒に対する姿勢など、何よりも生徒のためにどうしたらいいのか丁寧に研究されていることを見習っていきたいです。
- ・教師向けの情報発信もどんどんやっていく必要性を再認識できました。
- ・アプリ紹介、実践事例等もあり、とても興味を持って聞くことができました。後はうまく使いこなせるように努力したいです。子供たちのためにも積極的に取り組んでいきたいです。
- ・ICTが個々によって利用方法があることがわかり、実践活用できるように取り組んでいきたい。